

沖倉智美（大正大学）

相談支援従事者現任研修

3. 個別相談支援（意思決定支援）

本時の前提（初任者研修を振り返る）

× 相談支援の基本姿勢

- (1) 国際生活機能分類（ICF）
- (2) 自己決定とエンパワメント
- (3) ストレngths視点
- (4) 本人中心（Person-Centered）
- (5) ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン

× ケアマネジメント概論

障害者の地域生活を支援するための「技法」であり、計画そのものを作る「プランニング」だけではなく、本人と事業所とが会う「インテーク」、計画作成に当たっての「アセスメント」、計画に基づく「実施」、サービス提供による変化を確認する「モニタリング」、事業所の変更やライフステージの移行に伴う「終了と事後評価」を行う一連の循環的・螺旋的過程
→過程における「本人中心」「チームアプローチ」「社会資源の改善・開発」

2

本時の内容と目標

1. 意思決定とは
2. 意思決定支援とは
3. 相談支援過程における意思決定支援
4. 意思決定支援の着眼点

以上の項目に関して...

他者に**説明**ができ、自らが**実践**できること

3

1. 意思決定とは

- × 目標を達成するために、複数の選択肢の中から、1つないし複数の手段や方法を選ぶこと。
- × 決定するという一時点だけではなく、決定にまつわる情報を獲得・精査し、助言を得ながら検討、選択し、その決定を実現していく**一連の過程**。
- × 意思決定は、他者から直接的あるいは間接的な支援を得て実現しているものであり、この意味で社会の中で行われ、道徳や価値、そこに存在する他者からの影響を否定できず、たとえ障害がなくても、**独力で完遂する自己決定はあり得ない**。

4

2. 意思決定支援とは（1）

- × 「**支援つき意思決定（当事者の判断能力の最大化）**」のために必要な「**合理的配慮**」としての意思決定支援
 - ① 「**制度化された支援**」...成年後見制度や相談支援事業等と
 - 「**日常生活場面における支援**」...地域や社会福祉施設でソーシャルワーカーが提供している支援
 - ② 「**環境への間接的支援**」...制度施策の整備や自己決定に関する社会的価値や態度等の文化的背景、多次元のチームアプローチと
 - 「**意思決定場面への直接的支援**」...わかりやすい情報提供や当事者と支援者との信頼関係形成、意思形成や表出支援、成功体験の積み重ねと失敗の許容とやり直し支援

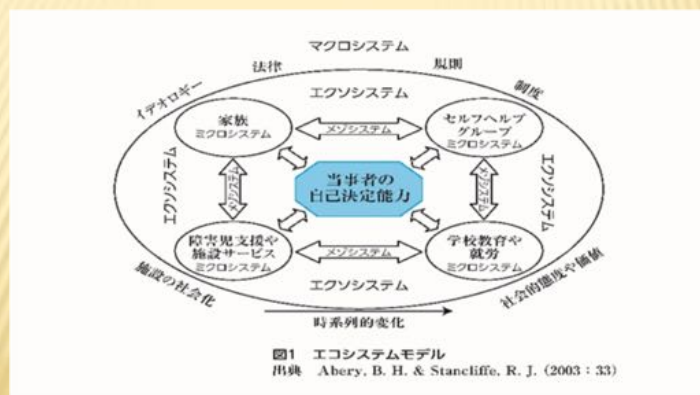
5

2. 意思決定支援とは（2）

- × 社会福祉施設等でサービス管理責任者と支援員とで作る個別支援計画に基づく支援は、生活や日中活動における個々の意思決定場面に応じた「**インシデント対応型**」が中心
相談支援専門員が行うサービス等利用計画に基づく支援は、「**プロセス対応型**」
⇒相互連関的
一つひとつの場面における意思決定支援の集積が、当事者の未来の意思決定を創る
一つひとつの意思決定支援は、サービス等利用計画の長期目標の実現を視野に入れた支援
- × **当事者と専門員との協働作業**
- × 専門員とは当事者の意思決定を支援する環境の一部かつ重要なものであり、**支援は意思決定と分離せず、当事者が選択可能なものとして意思決定過程に組み込んでおくべきもの**
- × **当事者と専門員とを孤立させない支援体制をいかに生み出すか**

6

2. 意思決定支援とは（3）



7

3. 相談支援過程における意思決定支援（1）

- × **インテーク・アセスメント**
(ニーズ把握は、どのような視点で、誰が、どのように行うのか)
 - ① **当事者の思い**と家族の考え、
そして相談支援専門員（やサービス管理責任者）の見立て
 - ② アセスメントシートの功罪
 - ③ 社会参加や地域生活はオプションか
 - ④ 障害の重い人たちのこと
 - ⑤ **多角的な視点で...「課題解決型」支援会議の重要性**
 - ⑥ 「地域を知ること」と「サービス事業所等を知ること」

8

3. 相談支援過程における意思決定支援（2）

<コミュニケーションルール>

- ① 困ったことなどの問題点、マイナス面ばかりを聴きすぎないこと。可能性や理想を本人とともに追求しましょう。
- ② 質問には自発的な発言を促す「開かれた質問」と、YES・NOで答えられる「閉じられた」質問があります。両者を上手に使い分けましょう。一方的な質問だけではなく、本人の自発的な発言に耳を傾けましょう。
- ③ わかりやすい質問を心掛けること。得たい答えが返ってこなかった場合は、質問方法を変えてみましょう。答えにくそうな質問をする際のエチケット。質問に対して答えを躊躇している場合、フォローしましょう。
- ④ 事実確認にとどまらず、本人の希望や意向を丁寧に聴いていきましょう。早すぎる助言や提案は、本人の主張を妨げます。本人とともに考えましょう。
- ⑤ 本人の発言に対する関心や共感を伝えることは大切です。「顔で笑って心で泣いて」ではなく、「目は口ほどにものを言う」です。わかりやすい豊かな表情や感情表現を心掛けましょう。
- ⑥ 聴き取った内容は、理解が正しいか、随時確認しながら進めましょう。わかったつもりは禁物です。
- ⑦ 聴き取った内容を記録することばかりに集中しないこと。本人の表情の変化にも注目しましょう。

9

3. 相談支援過程における意思決定支援（3）

× プランニング（目標設定と役割分担）

- ① 当事者の思いと家族の考え、そして専門員（やサビ管）の見立て
- ② 障害があると夢をみてはいけないのか
- ③ 誰が最後の決断をするのか、責任の所在は
- ④ 目標の共有と実現への決断...「情報共有型」支援会議の重要性
- ⑤ 目標レベルと取り組み期間の設定
 - ・ 高すぎる目標と低すぎる目標
 - ・ 努力目標と支援目標
 - ・ 目標達成の期間設定...短中長期目標を立てられますか
- ⑥ 誰がその支援を担当するのか

10

3. 相談支援過程における意思決定支援（4）

× 実施とモニタリング

- ① 当事者の思いと家族の考え、そして専門員（やサビ管）の見立て
- ② 顔の見えない「サービス等利用計画」と「個別支援計画」
- ③ サービス事業所等に対する「指示書（アセスメントや支援の伝達）」としてのサービス等利用計画
→ 「量（種類や時間数）」だけではなく、
「質（具体的支援内容と方法）」をどう記述するのか
- ④ サービス提供によって変化した当事者の力や周囲の環境を確認し、調整を行う「モニタリング」

11

3. 相談支援過程における意思決定支援（5）

改めて、為すべきことを確認する

- ① 計画作成と実施は「契約」です...だから一緒に作りましょう
- ② 当事者の思いに耳を傾けていますか
...「来年の今頃、どこでどうしていたい?」
- ③ 「していること」と「していないこと」
...自分の業務アセスメントの客観性（してないことはしましょう）
- ④ 「あるもの」と「ないもの」
...社会資源（サービス事業所等）のアセスメント
（ないものはつくりましょう）
- ⑤ 自分たちのしていることを「説明できること」と
その証拠として「記録に残すこと」
...「個々の生活」と「地域」の“Before”&“After”の可視化

12

4. 意思決定支援の着眼点（チェックリスト？）（1）

- ✳ 厚生労働省「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」
- ✳ 意思決定支援を実践（演習）するということ
 - ① 当事者にまつわる **社会資源ネットワーク** の可視化
 - ② 意思決定（支援）過程の記録化
(**当事者とのコミュニケーションを振り返る**)

13

4. 意思決定支援の着眼点（チェックリスト？）（2）

- a. 当事者の意向を無視していないか
 - b. 当事者の言葉の意味を吟味しているか
 - c. 支援者の都合が優先されていないか
 - d. 既存の社会資源（支援方法）だけが前提となっていないか
 - e. 先に結論があって、話し合いをしていないか
- + **当事者は決定を楽しく実行・実現することができているか**

* 合意形成（方針の一本化）を図った判断基準や根拠を、当事者も含めて随時確認する

14

参考文献・資料

- ✳ 公益社団法人日本発達障害連盟（2015）『意思決定支援の在り方並びに成年後見制度の利用促進の在り方に関する研究』平成26年度障害者総合福祉推進事業報告書
- ✳ 公益社団法人日本発達障害連盟（2016）『意思決定支援のガイドライン作成に関する研究』平成27年度障害者総合福祉推進事業報告書
- ✳ 厚生労働省「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12200000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu/0000159854.pdf>
- ✳ Michael L. Wehmeyer (2003) A functional theory of self-determination: Definition and categorization. In: M. L. Wehmeyer, B. H. Abery, D. E. Mithaug, & R. J. Stancliff (Eds.), Theory in Self-determination: Foundation for Educational Practice 174-181.
- ✳ 沖倉智美（2012）「演習『当事者の声を聴く』—参加者へのインタビューからその意義と課題を検証する—」『大正大学大学院研究論集』第36号, 146-154
- ✳ 沖倉智美（2012）「支援つき意思決定」の理論と実際—知的障害当事者の「自己決定」をどのように考えるのか—」一般社団法人日本社会福祉学会編『対論 社会福祉学5 ソーシャルワークの理論』中央法規出版, 217-245
- ✳ 沖倉智美（2017）「意思決定支援とソーシャルワーク」, 知的障害者の意思決定支援等に関する委員会 編『現場で活かせる意思決定支援』日本知的障害者福祉協会, 130 - 140
- ✳ 社会福祉法人全日本をつなぐ育成会（2014）『意思決定支援の在り方並びに成年後見制度の利用促進の在り方に関する基礎的調査研究について』平成25年度障害者総合福祉推進事業報告書

15